opusdei.org

## 黙想:聖家族

黙想のテーマ:「神の計画における家庭」「すべての賜物のゆりかご」「第一の使徒職」

神の計画における家庭

すべての賜物のゆりかご

第一の使徒職

「父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた」(Lc 2・33)。私たちも神が幼子になったこと、家族を必要としたことを見て

驚きます。私たちは家庭におること 変され、ゆるされ、ゆるされ、ゆるされ、ゆるされ、ゆるさりでは、 を学びます。私たちはかいない。 ないますいないででででででででででででででででいる。 ないがででいたができままででする。 ないができままででするものです。 ないができままです。 というでするものでするものではないです。 はいることででするものでするものではないです。 はいることででするものではないです。 はいることでするとはいるといる。 はいることでするとはいるといる。 はいることでするとはいるといる。 はいることでする。 はいることではいるといる。 はいることでする。 はいることでする。 はいることでする。 はいることでする。 はいることでする。 はいることでする。 はいることではいる。 はいる。 はいることではいる。 はいる。 

聖書には、「心を尽くして父を敬い、また、母の産みの苦陰で今のお陰で今のはならない。両親のお陰で前親になることを銘えるのおとを説しがあることを認しができます。ことは、からは、を共有することは正義にかなうを共有することは正義にかなった。

です。多くの場合、信仰と敬虔の種 を私たちの人生に蒔いてくれたのは 彼らです。

聖ホセマリアは、各家庭の掛け替え のない使命を私たちの前に提示しま す。「キリスト信者の家庭は聖家族 のような明るく朗らかなものであっ て欲しいと思います。ご降誕のメッ セージは力強く響き渡ります。『い と高きところには栄光、神にあれ、 地には平和、御心に適う人にあれ (ルカ 2・14)。使徒パウロは、「キ リストの平和があなたがたの心を支 配するようにしなさい」(コロサイ 3・15) と書いています。父である神 とキリストに愛され、おとめマリア に保護され、ヨセフに守られている ことを知っている者の平和のことで す。これは私たちの生活を照らす大 きな光であり、遭遇する困難や各自 の個人的な弱さをものともせず前進 するための力を与える平和なので すー言。

人生において重要なのは、愛されていることを知り、愛することを学びます。このことです。人はまず、このことで学びます。同時にないで学びあったとは言えないにないであるのも事実です。私たちはありません。ですから、今、の取りましての家族のためのなりましての家族のためのはありましょう。

家庭はすべての賜物のゆりかごで庭ると言えるかもしれません。家あるとは、自分自身でいる方は、祖されたちは、祖されたちは、祝祖されたちるとが表れたちることがあるとは、まれてあるとは、まれてあるとがはまれてあるとがはまれてあるとがはまれてあるとがはまれてあるとがはまれてあるとがはまれてあるとがはまれてあるという。、たのようにはよれたちはいずれにせよ私たちはいずれにせよ私たちはいずれにせよれたちはいずれにせよれたちはいずれにせよれたちはいずれにせよれたちはいずれにせよれたちはいずれにせよれたちはいずれにせよれたちはいずれにせよれたちはいいである。

子です。私たちは命をもらいました。そして誰かが私たちを待っています。最も困難な状況にあっても、子であることは父なる神と出会うための通常の道です。

「クリスマスは家族のお祝いと見な されています。集まり、贈り物を交 換することは、相互に交わりたいと いう強い願望を強調し、家族の最高 の価値を明確にします。家族は、真 理・愛・夫婦間の不解消の忠実・命 を受け入れることに基づいた、人と 人との愛の交わりとして再発見され ます。クリスマスの光の中で、家族 はプロジェクト・連帯・ゆるし・信 仰の共同体であるという使命を理解 します。家族の中で、一人ひとりは アイデンティティを失うのではな く、それぞれ固有のものを賜物とし て提供することにより皆の成長に貢 献します。聖家族がそうでした。信 仰は聖家族を、キリストの光で照ら

されたすべての家族の始まりと模範 として、提示します| 121。

ベツレヘムにおいて、神は私たちの 一人になりました。神は私たちの歴 史、私たちの道、私たちの自由を生 きたいと望みました。「家庭はキリ スト論的しるしです。受肉、十字 架、復活によって人間と結ばれるこ とで人間のいのちをともに生きてお られる神の、近しさを示すからで す l 🔞 家族の力は非常に大きく、 私たちを希望で満たします。家庭に おける愛が持つ変容と癒しの力に よって、どんな困難も克服できま す。家庭はすべての賜物を私たちに 授けるために神が選ばれた場所で す。まずはじめに命、そして信仰、 召命、名前、教育、気質、言葉、所 属する場所…それゆえ聖ヨハネ・パ ウロ2世は、聖母マリアへの連祷

に、家庭の元后への願いを含めることにしました。それ以来、何百万もの声と心が、聖母に、世界中の家族を守るよう、すべての家族が人類を絶えず刷新するためのゆりかごとなるよう願っています。

両親と兄弟姉妹は、私たちの血縁で す。そのため、私たちの盲教への願 いは、彼らに対する配慮から始まり ます。キリストの初期の弟子の盲教 も同様でした。アンドレは、「まず 自分の兄弟シモンに会って、『わた したちはメシアー〈油を注がれた 者〉という意味一に出会った』と 言った。そして、シモンをイエスの ところに連れて行った。イエスは彼 を見つめて、『あなたはヨハネの子 シモンであるが、ケファー〈岩〉と いう意味一と呼ぶことにする』と言 われた | (ヨハネ1・41-42)。アン ドレと一緒に最初にイエスに近づい たヨハネも、兄弟ヤコブにその発見 を伝えました。このようにヨハネは

後のヤコブの召し出しの準備をしたのです。

マリアとヨセフとともに、私たちも 感嘆の心で満たされたいと願ってい ます。ベツレヘムにおいて神はすべ ての家庭のもとに降りました。とり わけ最も傷ついた家族のもとに来ま した。それは私たちを癒し、私たち に寄り添い、私たちと共にいるため です。

- [1] 聖ホセマリア『知識の香』22番。
- [2] 聖ヨハネ・パウロ二世、 一般謁 見演説、1999年12月29日。
- [3] 教皇フランシスコ、使徒的勧告 『愛のよろこび』、161番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-koutan-seikazoku/(2025/12/18)